

「特別の教科 道徳」学習指導略案

第2学年2組28名

指導者 井上 幸恵

1. 主題名「みんなのことを考えて」 C-10 規則の尊重
2. 資料名「黄色いベンチ」(出典:Gakken「みんなの道徳②」)
3. 本時のねらい

自分勝手な行動が人の迷惑になることに気付かせ、きまりや約束を守り、みんなが使う物や場所を大切にしようとする心情を育てる。

4. 展開

時間	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導入 5分	1 学校で使っている場所にはどんなきまりがあるか出し合う。 ○学校でのきまりにどんなことがあるでしょう。 ・校庭で遊べる曜日が決まっている ・廊下は走らない ・図書室では静かにする	◇振り返りの際に自分事として捉え直すようにするため板書を残しておく。 ◇きまりがなければもっと楽しく遊ぶことができるという本音も引き出しておく。
展開 30分	2 「黄色いベンチ」を読み、話し合う。 ○ベンチで紙飛行機を飛ばしたたかしとてつおは、どんな気持ちで遊んでいたでしょうか。 ・楽しい ・気持ちがよい ・もっと遠くへ飛ばしたい ○ベンチに座ってスカートを汚してしまった女の子はどんな気持ちでしょうか。 ・嫌だな ・汚い ・座らなければよかったな ☆はっとして顔を見合わせた二人はどんなことを考えたでしょうか。 ・わるいことをしたな ・いやな気持ちだろうな 3 自分の生活を振り返る ○今日の学習を振り返り、きまりを守れなかった時どんな気持ちになりますか。また、どんなことが困りますか。ワークシートに書いてみましょう。	◇登場人物、条件、状況についておさえる。 ◇遊びに夢中になってしまい、他の人の迷惑になることを考えていない2人の気持ちに気付かせる。 ◇相手にどれだけ不快な思いを与えるのか想像させるために、実際の画像を提示する。 (泥だらけのベンチ、泥で汚れたスカート、泥をふき取ったハンカチの実物) ◆みんなが楽しむために必要なものとして、きまりや約束を捉えている。 (発言・観察) ◆約束やきまりを守れなかったときの自分を見つめ直している。 (発言・ワークシート)
終末 10分	4 教師の発問に対して考えを共有する。 ○黄色いベンチで遊んではいけないきまりはありません。だから遊んでも良いのではないですか。 ・みんなが使うベンチだから・良い気分ではないから ・次にベンチに座る人が悲しい気分になるから	◇きまりにはないけれど、他の人も使うことを考えると、正しい行為ではないことに気付かせる。 ◇教師の中で結論付けせず、児童の率直な考えを交流し合い、余韻をもたせる。